



# 宮城 多賀城市

## 歴史のまち 減災力高める

多賀城市は仙台港方向から押し寄せた津波と、砂押川を遡上してきた津波により最大4.6mの高さまで浸水した。幹線道路の国道45号や県道仙台塩釜線で渋滞が発生し、多くの車両が巻き込まれて犠牲が拡大した。工場など林立する建物で行き場を失った津波が、水位と速度を増して予想外の方向から襲い掛かる「都市型津波」が特徴だった。

市は被災した住宅の現地再建を原則とし、集団移転促進事業は実施しなかった。津波時の住民の安全確保のため内陸への緊急避難路・物流路を2本整備。市道の清水沢多賀城線が今年1月に開通し、笠神八幡線が9月に完成すれば市の復興事業は完了する。

産業面では、八幡一本柳地区に津波復興拠点の工業団地「さんみらい多賀城・復興団地」(10.2%)を造成した。進出した12社は市との立地協定に基づき、津波で仙台港周辺の工業地帯が被災した場合、受託生産などで事業継続を後方支援する。

まちづくりのベースは歴史と文化。JR多賀城駅前に2016年3月、移転した市立図書館やカフェが入る再開発ビルが開業し、市内外から年140万人が訪れ、活気づいている。多賀城創建1300年となる24年に向けて国指定特別史跡「多賀城跡」の南門の復元工事も進む。

16年4月、全国の高校で2例目となる防災系専門学科「災害科学科」が多賀城高に設置された。1学年の定員は40人。生徒は防災知識を学びながら震災の伝承活動に励み、全国から注目を集めている。



震災後に起業した備蓄用食品製造会社など12社が立地する「さんみらい多賀城・復興団地」(多賀城市提供)

### ● まちのデータ

人口	2021年5月1日 6万2478人	11年3月1日 6万2990人	増減率 -0.8%
復興交付金	462億1244万円		
犠牲者	死亡 188人	行方不明 0人	関連死 31人
住宅被害	全壊 1746棟	半壊 3730棟	一部破損 6166棟

※復興交付金は復興庁まとめ、多賀城市内で実施された宮城県事業への交付分を含む。人口、犠牲者、住宅被害は県まとめ

### ● まちの動き

- 2011年**
  - 3月11日 地震発生。多賀城で震度5強。津波浸水高は最大4.6m。市面積の33.7%に当たる662%が浸水
  - 7月28日 仮設住宅全373戸完成。最大725人が入居
  - 9月30日 最大39カ所に入った避難所を全て閉鎖。ピーク時に1万2000人以上が身を寄せた
  - 12月21日 市震災復興計画策定
- 2012年**
  - 4月16日 仮設店舗・事務所「多賀城復興横丁わいわい村」引き渡し
- 2013年**
  - 10月31日 市民や企業、大学と連携して災害に強い都市づくりを目指す減災都市戦略を策定
  - 11月17日 JR多賀城駅の新駅舎が使用開始
  - 28日 市が「減災都市」を宣言
- 2014年**
  - 3月 震災の写真や映像を後世に伝えるデジタルアーカイブ「たがじょう見聞録(けんぶんおく)」運用始まる
  - 10月17日 災害公営住宅を供給開始。計532戸を順次整備
- 2015年**
  - 3月11日 多賀城駅前に東日本大震災モニュメントを建立
- 2016年**
  - 3月21日 多賀城駅前に市立図書館が移転開館
  - 27日 三陸沿岸道多賀城インターチェンジが利用開始
  - 4月1日 多賀城高に災害科学科が誕生
- 2017年**
  - 3月31日 仮設住宅を全て閉鎖
- 2018年**
  - 4月28日 市内の東北歴史博物館で東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北 復興を支えた人々の祈り」開幕
  - 6月25日 宮内地区の区画整理事業が完了
- 2019年**
  - 3月28日 工業団地「さんみらい多賀城・復興団地」の造成が完了
- 2020年**
  - 4月1日 防災拠点「さんみらい多賀城イベントプラザ」オープン
  - 6月7日 多賀城跡の南門の復元工事始まる
- 2021年**
  - 1月26日 緊急避難路・物流路の清水沢多賀城線が開通



### ● まちの宝



多賀城跡

日本三大史跡の一つ。宮城県内で唯一、国の特別史跡に指定されている。約900m四方の広さに政庁跡などがあり、古代東北の政治や文化、軍事の中心地だった多賀城の面影を伝える。



市立図書館

「TSUTAYA(ツタヤ)」を展開するカルチャー・コンビニエンス・クラブ(東京)が東北で初めて指定管理者となった公共図書館。年140万人が訪れる。

国道45号や県道仙台塩釜線(産業道路)沿いに多くの住宅や商店が現地に再建された(2021年2月19日)

仙台港と砂押川から押し寄せた津波に襲われ、市街地は大きな被害を受けた(2011年4月17日)(一般社団法人東北地域づくり協会提供)

多賀城駅を中心に住宅が連なり、仙台のベッドタウンとして発展してきた(2010年11月)(同協会提供)